

書面協議の結果報告について

<協議会委員> (■回答書提出者)

- 新川委員 (会長) ■壬生委員 (副会長)
- 原田委員 ■藤本委員 ■山岡委員 ■山口委員
- 木村委員 ■園田委員 ■高橋委員

<協議事項>

- ①令和6年度外部評価実施要領(案)について
- ②令和6年度外部評価対象項目の選定について

<協議結果>

- ①令和6年度外部評価実施要領(案)について

別紙1のとおり意見あり

意見を受け、実施要領(案)を修正し、新川会長へ報告。

修正案のとおり決定することとなった。

- ②令和6年度外部評価対象項目の選定について

回答者9名のうち、項目希望あり9名、項目希望なし0名。

希望順に設定した点数(第1希望:4点、第2希望:3点、第3希望:2点、第4希望:1点)により各項目の順位付けを行い、新川会長へ報告。

高得点順に次の4項目を外部評価項目として決定することとなった。

○令和6年度外部評価決定項目

- ①実現戦略6「若手職員を中心としたコミュニケーション力・課題発見力・課題解決力など能力開発」(1位・19点)
- ②実現戦略4「市政情報の可視化による信頼の向上と発信力の強化」(2位・11点)
- ③実現戦略22「市民参画による公共施設マネジメントの推進」(3位・10点)
- ④実現戦略30「ふるさと納税の更なる増強・企業版ふるさと納税の活用促進」(4位・9点)

<その他>

外部評価以外の意見等については別紙2「その他意見及び事務局の回答について」のとおり

令和 6 年度外部評価実施要領（案）に係る意見及び回答について

①取組の妥当性に対する評価

意見（要約）	事務局回答
<p>目標設定の妥当性や今後の方向性は、「<u>適当・不適當</u>」で判断可能であるが、取組実績や取組効果は「<u>適当・不適當</u>」になじまない上に、区別もつきにくい。実績や効果をアウトプットやアウトカムと捉えるなら、実績の到達度が目標通りなのか、不十分なのか、想定された効果が出て事業目的や施策目標が達成できたのかどうかなど、その程度を確認することになる。</p> <p>また、これらの項目では、費用に対する効果、効率性の問題はとらえきれないのではないか。</p>	<p>実現戦略取組シートに記載された「目標設定」、「取組実績」、「取組効果」、「今後の方向性」の4つの項目について、妥当性の観点から評価いただきたいと考えておりましたが、ご意見のとおり、項目によっては「<u>適当・不適當</u>」とした妥当性の評価になじまないものがあることから、以下のとおり有効性や適切なプロセスの視点も踏まえた評価を頂けるよう修正を行います。</p> <p>【修正前】 「目標設定」、「取組実績」、「取組効果」、「今後の方向性」における<u>妥当性</u>について、『<u>適当</u>』、『<u>不適當</u>』のいずれかによる評価する。</p> <p>【修正後】 「目標設定」、「取組実績」、「取組効果」、「今後の方向性」の4つの項目について、<u>妥当性や有効性、適切なプロセスの観点から『適当』、『要改善』のいずれかにより評価する。</u></p> <p>なお、第4次木津川市行財政改革行動計画は、職員育成や行財政運営マネジメントに関連する項目が多いことから、費用対効果をどう示すか課題と捉えており、現段階では外部評価において判断・評価をいただくことが難しいため、令和6年度においては判断基準に含めないこととしています。</p>

②内部評価の妥当性に対する総合評価

意見（要約）	事務局回答
<p>定性・定量評価は、本来、施策や事業の目的を測定するための方法であることから、総合評価を判断する基準として、客観的な進捗度や市民に対する効果の観点も含めてはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、客観的な進捗度や市民に対する効果の観点も踏まえ、最終的な判断をいただきたいと考えますので、外部評価シートにおける評価の考え方を以下のとおり修正いたします。</p> <p>【修正前】 市の内部評価に対し、「<u>1.取組の妥当性に対する評価</u>」と「<u>2.最適化の視点に対する評価</u>」を踏まえ、『<u>適当</u>』、『<u>過大な評価</u>』、『<u>過少な評価</u>』のいずれかにより総合的な評価をいただき、総括意見等欄にその評価理由を記入してください。</p> <p>【修正後】 市の内部評価（<u>定性・定量</u>）に対し、<u>客観的な進捗度や市民に対する効果の観点も踏まえ</u>、『<u>適当</u>』、『<u>過大な評価</u>』、『<u>過少な評価</u>』のいずれかにより総合的な評価をいただき、総括意見等欄にその評価理由を記入してください。</p>

その他意見及び事務局の回答について

①実現戦略項目について

意見（要約）	事務局回答
<p>実現戦略27「受益者負担の適正化」について、取組の趣旨は理解するが、分析や方向性の決定が難しく、職員が多くの労力・時間を費やしても、その努力が無駄になるのではないかと懸念している。</p>	<p>施設やサービスを利用する人としいない人の税負担の公平性を確保するため、受益者負担の考え方や算定方法等を明確化しながら、市民や利用者の皆様への説明責任を果たすとともに、今後、定期的な検証や見直しを行うことで、持続的・安定的な行政サービス等の提供に向けた市の統一的な方針として、令和元年7月に「木津川市使用料・手数料等に関する基本方針」を定め、全庁的な取組みとして分析、見直し作業を進めましたが、最終的な方針決定に至らず、その後のコロナ禍や昨今の物価高騰による市民生活への影響を考慮する中で、見直しに至っていない現状にあります。</p> <p>そこで第4次木津川市行財政改革行動計画において、実現戦略⑳受益者負担の適正化を掲げ、計画期間中において、適正な使用料を算出するための根拠として施設カルテの整備によるなど客観的なデータに基づくコストの分析や、減免措置の考え方の整理などに加え、施設の長寿命化やソフト面のサービス品質向上にも取り組むことで、これからの時代にあった使用料・手数料へと見直し、受益者負担の適正化に取り組むものです。</p>

②用語説明について

意見（要約）	事務局回答
<p>キーワードである「自治体DX」、「生成AI」、「スマート自治体」などの用語について、共通した認識の中で議論ができるよう定義づけを行ってほしい。</p>	<p>計画における各用語の説明については次のとおりです。</p> <p>○自治体DX 自治体がデジタル技術を活用し、住民サ</p>

	<p>サービスの向上、経費削減など、より良い行政サービスへの転換を図るもの。</p> <p>○生成A I インターネット上にある情報や利用者が入力した情報を元に、テキスト・画像・音楽・動画を自律的に生成できるA I技術の総称を指すもの。</p> <p>○スマート自治体 システムやA I（人工知能）等の技術を駆使して、効果的・効率的に行政サービスを提供する自治体を意味するもの。</p> <p>その他の用語説明については、第4次木津川市行財政改革大綱の注釈欄（最下段）に記載していますのでご確認ください。</p>
--	--

③会議経過要旨に係る委員氏名の表記について

意見（要約）	事務局回答
<p>会議経過要旨中、意見・質疑応答箇所において、発言委員が特定できないような表記となっているが、委員氏名を明示することによって、委員間での活発な意見交換が期待できると考えるため、検討してほしい。</p> <p>【現行】 【◎：会長発言、○：委員発言、⇒：事務局発言】</p>	<p>委員会の運営に当たっては、木津川市行財政改革推進委員会運営内規において必要な事項を定めており、第4条において委員会の日時及び場所、出席した委員等の氏名、委員会の議題、委員会経過の要旨、その他議長が必要と認めた事項を記録した会議経過の要旨を作成すると規定しています。</p> <p>たしかに会議経過要旨において、発言者として委員氏名を記載することで、活発な意見交換が期待できる可能性がある一方で、個人が特定されることで自由な発言や率直な意見交換が損なわれ、結果として会議運営に支障が生じることが懸念されることから、委員会発足当時から委員氏名を記載しない取扱いとしています。</p>

	<p>事務局としては、会議において時間的制約がある中であって、事務局との質疑応答に加えて、識見委員、公募委員として、それぞれのお立場からの発言や提案、また委員間での忌憚のない意見交換を行っていただき、委員会として市に提言等を行っていただくことが望ましいものと考えます。</p> <p>いずれにいたしましても、会議運営に関する事項となるため、今後、委員のみなさまのご意見やご意向をお伺いする中で、委員会において決定いただきたいと考えます。</p>
--	--

④第1回委員会に係る審議進行について

意見（要約）	事務局回答
<p>外部評価項目を第1回委員会で選定することが前提になっていることが分かりにくかった。議事内容等を踏まえ、一定の時間内に審議が行えるよう、事務局は必要な資料の作成や時間の割り振りを行ってほしい。</p>	<p>会議開催に向けた事前調整、必要な資料等の準備が十分でなかったことで、貴重な時間を割いて出席いただいた委員のみなさまにご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げますとともに、時間的な制約がある中であっても、識見委員、公募委員として、それぞれの立場からの発言や提案、また委員間での忌憚のない意見交換の場となるよう、審議会の運営に努める所存でありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。</p>

令和6年度外部評価実施要領について

〔外部評価の目的〕

市が決定した第4次木津川市行財政改革行動計画の実現戦略に係る自己評価に対し、第三者による検証の機会を確保し、評価の客観性の向上及び評価の中立性・透明性の確保を図るとともに、Check&Action 機能の強化による計画の推進、市民サービスの向上、職員の意識改革を目的とする。

〔実施主体〕

木津川市行財政改革推進委員会（9名）

〔外部評価項目〕

実現戦略4「市政情報の可視化による信頼の向上と発信力の強化」

実現戦略6「若手職員を中心としたコミュニケーション力・課題発見力・課題解決力など能力開発」

実現戦略22「市民参画による公共施設マネジメントの推進」

実現戦略30「ふるさと納税の更なる増強・企業版ふるさと納税の活用促進」

〔外部評価の考え方〕

実現戦略取組評価シートに記載された「目標設定」、「取組実績」、「取組効果」、「今後の方向性」の4項目に応じた妥当性や有効性、適切なプロセスの確認及び最適化の視点に基づく効果の有無、市が行った定性（進捗度）・定量（達成度）評価について、幅広い観点から総合的に評価（外部）を行う。

〔担当課ヒアリング〕

一つの項目ごとに所管課からの説明を受け、行財政改革推進委員からの質疑等を行う。

◇ヒアリングの流れ（1項目あたりの所要時間：約50分）

1. 開始
会長の進行により開始します。
2. 担当課説明（約10分）
第4次行財政改革行動計画の実現戦略に係る取組状況等について、取組評価シート及び関連資料資料に基づき、簡潔にポイントを説明します。
3. 質疑応答（約40分）
委員は、説明内容について質疑等を行い、市担当課が回答します。
4. 外部評価シート記入（後日）
委員は、取組状況から市の評価に対する評価を行う。（評価記入・提出は後日）

〔評価〕

各委員は、それぞれの項目の「外部評価シート」（別紙）を作成し、後日（概ね2週間程度）に事務局へ提出。

1. 4つの項目に対する評価

「目標設定」、「取組実績」、「取組効果」、「今後の方向性」の4つの項目について、各項目に応じた妥当性や有効性、適切なプロセスの視点から『適当』、『要改善』のいずれかにより評価する。

2. 最適化の視点に対する評価

実現戦略ごとに定められている最適化の視点に係る効果について、『適当』、『やや不十分』、『不十分』のいずれかにより評価する。

3. 総合評価

市の「定性評価」、「定量評価」の内部評価について、客観的な進捗度や市民に対する効果の観点を踏まえ、『適当』、『過大な評価』、『過少な評価』のいずれかにより総合的に評価する。

〔評価結果〕

各委員から提出された評価結果を事務局でとりまとめ、次回開催の第3回委員会で書面にて報告（速報）を行う。

2回の外部評価の実施後、今年度末に開催予定の第4回委員会において評価結果を審議のうえ決定し、「外部評価令和6年度中間報告書」として市長に対して報告を行う。

〔ヒアリング日程等〕

会場は、木津川市役所本庁舎内会議室、時間は午後2時から2時間を予定する。

	実施日・対象項目
第1回外部評価 (第2回委員会)	令和6年11月12日(火)午後2時～午後4時 ①実現戦略4「市政情報の可視化による信頼の向上と発信力の強化」 ②実現戦略6「若手職員を中心としたコミュニケーション力・課題発見力・課題解決力など能力開発」
第2回外部評価 (第3回委員会)	令和6年1月24日(金)午後2時～午後4時 ①実現戦略22「市民参画による公共施設マネジメントの推進」 ②実現戦略30「ふるさと納税の更なる増強・企業版ふるさと納税の活用促進」

〔事前の論点・課題整理〕

外部評価の項目を決定後、より効果的なヒアリングを行うため、事前の論点・課題整理の実施を予定。

選定項目に対する質問や確認しておきたい事項、追加資料など委員意見を取りまとめ、所管課に対し照会を行い、ヒアリング前に所管課からの見解や資料を共有を行います。

令和6年度「第4次行財政改革行動計画」外部評価シート

(令和6年〇月〇日(〇)ヒアリング実施) 評価者: _____

戦略番号	〇	実現戦略名	〇〇〇〇
担当課	〇〇課		主な関係課 〇〇〇
実施内容			

選定された項実現戦略に応じ、事務局が各項目を記入します。

1. 4つの項目に対する評価

(各評価欄の「適当」、「要改善」のいずれかをチェック)

○目標設定 (<u>妥当性</u> : 行動内容・行動計画を踏まえた目標設定となっているか)	
(評価欄)	(意見等)
<input type="checkbox"/> 適 当	
<input type="checkbox"/> <u>要改善</u>	
○取組実績 (<u>適切なプロセス</u> : 計画達成に向けた取組ができたか、 <u>手順等は適切であったか</u>)	
(評価欄)	(意見等)
<input type="checkbox"/> 適 当	評価シートの記載内容及び外部評価ヒアリングで聴取した所管課の取組等を参考に、 <u>妥当性</u> 、 <u>有効性</u> 、 <u>適切なプロセスの視点から『適当』、『要改善』</u> のいずれかにより評価いただき、必要に応じて意見等欄を記入してください。
<input type="checkbox"/> <u>要改善</u>	
○取組効果 (<u>有効性</u> : 計画達成に向けた取組効果は十分か、 <u>その内容は有効であるか</u>)	
(評価欄)	(意見等)
<input type="checkbox"/> 適 当	
<input type="checkbox"/> <u>要改善</u>	
○今後の方向性 (<u>妥当性</u> : 課題等を踏まえた今後の取組方針に問題はないか)	
(評価欄)	(意見等)
<input type="checkbox"/> 適 当	
<input type="checkbox"/> <u>要改善</u>	

2. 最適化の視点に対する評価

(○：適当、△：やや不十分、×：不十分 のいずれかを評価欄に記入)

○○○な視点	
<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分	(意見等)
○○○な視点	
<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分	(意見等)

各戦略に定められている7つの最適化に係る推進状況等について、『適当』、『やや不十分』、『不十分』のいずれかで評価いただき、必要に応じて意見等欄を記入してください。

3. 総合評価

○市の内部評価

取組進捗度 (定性評価)		
達成度 (定量評価)	現況値 (R4)	実績値 (R5)
	現況値 (H29)	
	現況値 (H29)	実績値 (R5)

市が決定した定性・定量評価 (内部評価) について事務局が記入します。

外部評価結果 (「適当」、「過大な評価」、「過少な評価」のいずれかをチェック)

(評価欄)	(総括意見等)
<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 過大な評価 <input type="checkbox"/> 過少な評価	

市の内部評価 (定性・定量) に対し、客観的な進捗度や市民に対する効果の観点も踏まえ、『適当』、『過大な評価』、『過少な評価』のいずれかにより総合的な評価をいただき、総括意見等欄にその評価理由を記入してください。

令和6年度外部評価対象項目選考に係る点数集計結果

	順位	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員	G委員	H委員	I委員	合計点
1 マチオモイな人たちの発掘・育成・支援	16										0
2 産官学との連携による持続可能な社会の実現	16										0
3 あらゆる世代が参画しやすい市政の推進	16										0
4 市政情報の可視化による信頼の向上と発信力の強化	2				3			4		4	11
5 まちづくりの原動力となる職員の育成・確保	9		1					2			3
6 若手職員を中心としたコミュニケーション力・課題発見力・課題解決力など能力開発	1	4		3	4		4		3	1	19
7 職員表彰制度によるモチベーションの向上と職場風土の改革	14								1		1
8 女性活躍・多様な人材(人財)・多様な働き方の推進	16										0
9 こころとからだの健康保持・増進	16										0
10 職員の成長と活躍を支える組織体制の構築と人員配置の最適化	9		3								3
11 部局横断による課題解決力と対応力の強化	7			4							4
12 新たな視点による行政運営マネジメントシステムへの転換	16										0
13 情報公開制度と個人情報保護制度の更なる適正運用	16										0
14 コンプライアンスの更なる徹底	16										0
15 木津川市スマート化宣言の具現化・具体化による取組みの加速	16										0
16 自治体DX推進体制の構築	5							3	4		7
17 自治体DXに向けた職員の意識改革と行動の変容	16										0
18 業務改革による効率性・生産性の向上(ムリ、ムダ、ムラの解消)	11								2		2
19 オフィス空間の最適化の検討	16										0
20 ファシリティマネジメント推進体制整備による取組みの加速	6	3			2						5
21 保有資産の可視化	16										0
22 市民参画による公共施設マネジメントの推進	3	2				4	2			2	10
23 近隣団体との連携による共同運営・相互利用等の推進	14						1				1
24 未利用・低利用資産の更なる有効活用	16										0
25 公共施設包括管理業務委託導入可能性の検討	16										0
26 サービス品質の向上による利用促進	11			2							2
27 受益者負担の適正化	16										0
28 市税等収納率の更なる向上	16										0
29 資産等の有効利用による自主財源の確保	16										0
30 ふるさと納税の更なる増強・企業版ふるさと納税の活用促進	4	1		1	1		3			3	9
31 資源を最適配分するための自主性・自立性の確保とコスト意識の向上	16										0
32 予算編成マネジメントの強化	16										0
33 ガイドラインの策定による適正かつ効果的な補助制度への転換	11		2								2
34 情報システム最適化の推進	16										0
35 入札・契約制度の更なる適正運用	16										0
36 公共事業・大規模事業の平準化	16										0
37 地方公会計による財務書類や地方財政状況調査結果の分析と活用	16										0
38 基金の管理・運用と計画的な積立て・取崩しによる財政調整	16										0
39 財政指標等の目標設定による財政健全化	7		4								4

※委員名及び並び順について、個人が特定できないように変更しています。